

(寄稿)

NOMURA

「あをに工房」による要介護高齢者就労の実態と可能性

働いて収入を得ながら暮らせる有料老人ホームがある。言わば、「仕事付き」有料老人ホームである。仕事といっても施設運営の仕事を行うのではなく、外部の事業者からの仕事を請け負っている。例えば、お菓子のパッケージ梱包などの受託がある。老後の備えとしての貯蓄や年金受給額が十分でなく、有料老人ホームに入居できない高齢者も多い中、その受け皿としても重要な役割を担っている。

今後、期待される取り組みではあるが、その存在意義は、経済的な理由だけではない。そこで働く入居者の方は、日々過ごす意欲や、やりがいを感じることも多いという。実際、この年齢で仕事ができるという満足感や、仕事のおかげで部屋に閉じこもることがなく、充実した日々が過ごせたなどの声も聞かれる。

高齢者が安心して働く環境づくりには、あらゆる工夫がなされている。例えば、高齢者に負担をかけないように就労時間を1時間に設定したり、一連の作業工程を細分化することにより、それぞれが得意とする工程を担当できるようにしている。また、その時に働いている高齢者に合わせた作業工程の振り分けや、作業する座席の並べ方までも考慮され、作業の効率性を上げている。実際、作業経験を積むことで、担当できる作業範囲が増えたり、作業スピードが上がったりすることが、さらなる喜びややりがいにつながっているという。

本稿は、この「仕事付き」有料老人ホームを企画運営する株式会社リールステージ 中山 久雄 代表取締役社長に寄稿いただき、高齢者就労支援事業を紹介いただいた。当社は、奈良県、大阪府、三重県、岡山県に介護保険サービス(デイサービス・訪問介護・居宅介護支援)事業、高齢者住宅(有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅)、保育園、鍼灸接骨院を展開しており、2019年4月、「あをに工房合同会社」を設立し、高齢者就労支援事業、大人の発達障害就労移行支援事業を新たに展開し運営している。

本稿では、4年前まで東京の大手企業(異業種)で勤務していた中山社長の視点から見た介護業界の問題点や、そこから見えてきた解決策について丁寧に解説いただいた。そして、その解決策であるあをに工房合同会社の取り組みとしての高齢者就労支援事業について、事業スキームや事業運営の方法、そこで働く高齢者の報酬金額についても紹介いただいた。

今後、さらに深刻化する生産労働人口の減少による人手不足や、働き方改革の推進の解決策として大変興味深い取り組みとなっている。

(市川)

2020年3月23日

Healthcare note

(No. 20-03)

寄稿者名：
株式会社リールステージ
代表取締役社長

あをに工房合同会社
代表社員

中山 久雄

編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
市川 剛志

野村證券株式会社
金融公共公益法人部